

摘み取り手伝い、苦労実感 荒砥高生



鋭いとげに気を付けながら紅花を摘み取る
＝白鷹町中山
荒砥高の生徒

だといい、「これだけの量を管理するのは大変だと思う」と生産者の苦労に思いを寄せた。

同校は地域貢献活動の一環で、摘み手不足に悩む紅花農家を支援しようと、毎年収穫を手伝っている。

(野田達也)

白鷹

白鷹町の荒砥高(丹野陽校長)

は14日、同町中山の大紅花畑で紅花の摘み取りボランティアに汗を流した。

全校生徒と教職員の計約100人が参加した。運動着に長靴、ゴム手袋姿で約1・4畝の畑に入り、鮮やかに色づいた花を1輪ずつ

丁寧に摘み取った。鋭いとげが指先や腕に触れるたびにあちこちで悲鳴が上がる中、腰に結んだビニール袋に花びらを次々と入れていった。

昨年が続いて紅花摘みを経験した2年鈴木海斗さん(16)は、片手で花の下を支えながら摘むコツをつかん